

SAR形 ステンレス製 凍結破損防止RS-3形 水道用急速空気弁 呼び径25 メンテナンスについて

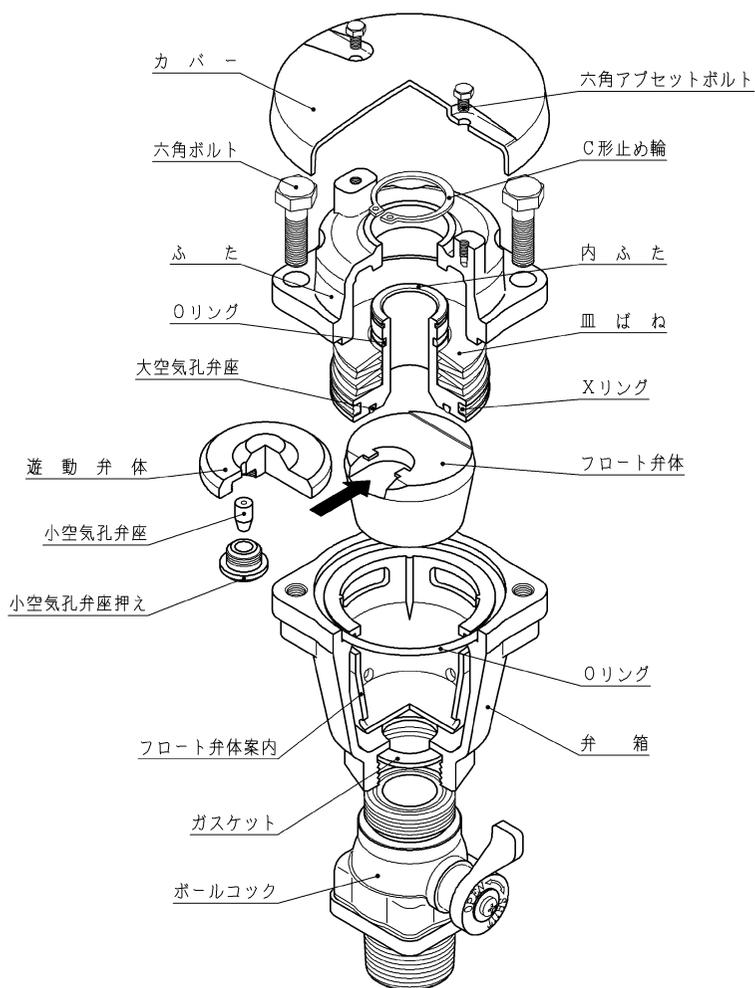
1 はじめに

当社の製品であることを確認してください。

他メーカーの場合、この資料とは異なりますので注意してください。

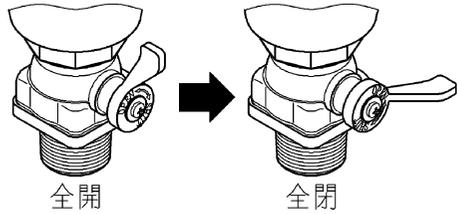
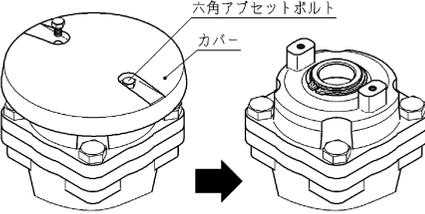
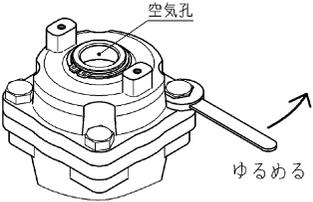
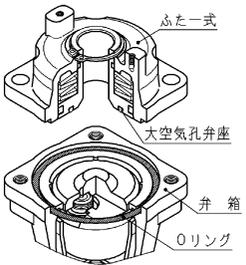
2 構造

ステンレス製 凍結破損防止RS-3形 水道用急速空気弁の構造(2種)を下図に示します。



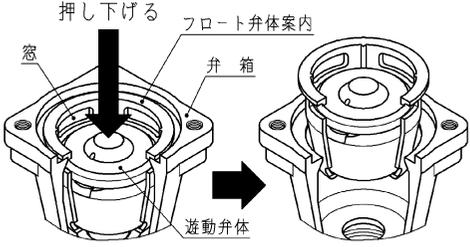
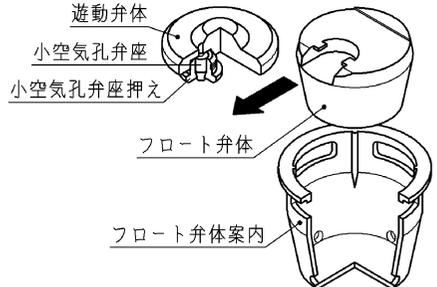
3 分解

以下の手順にて分解してください。

| 順 | 分解要領 | 備考 |
|---|---|--|
| 1 | ボールコックのレバーを操作して全閉にする。  | 注) ボールコックは分解しないでください。 |
| 2 | スパナ(呼び8mm)などを使って六角アプセットボルトをゆるめ、カバーをはずす。  | 注) ボルトは落下・紛失させないように意ってください。 |
| 3 | スパナ(呼び17mm)などを使って六角ボルトを徐々にゆるめ、空気弁内の残留圧力を抜く。  | 注) 作業時に弁箱が回らないようにしてください。 注) 残留圧力が抜ける瞬間、水が勢い良く飛び出すことがありますので作業は慎重にしてください。 |
| 4 | ・六角ボルトを全て抜き取りふた一式をはずす。 ・弁箱の段落部にあるOリングを取り出す。  | 注) ふた一式に大空気孔弁座が装着されていますので取り扱いに注意してください。 注) ふた一式は分解しないでください。 |

分解手順の続きは裏面をご覧ください。

表面からの続きです。

| 順 | 分解要領 | 備考 |
|---|--|---|
| 5 | <p>・フロート弁体案内を弁箱から抜き出す。</p>  | <p>※遊動弁体を押し下げるとフロート弁体案内に窓がありますのでそれを利用して容易に抜き出すことができます。この時こじれないように真上に抜き出してください。</p> |
| 6 | <p>フロート弁体案内に遊動弁体一式（小空気孔弁座・小空気孔弁座押え含む）とフロート弁体が収まっているので取り出す。</p>  | <p>注) 取り出した部品に異常がある場合は、必要に応じて取替えを行ってください。 ただし、小空気孔弁座と小空気孔弁座押えは遊動弁体に特殊工具によってねじ込まれていますので一式で取り替えてください。</p> |

4 部品の調査と清掃

1. 漏水の原因とされる部品の確認

- 遊動弁体に装着されている小空気孔弁座に異物等が付着していないか確認してください。
- ふた一式に装着されている大空気孔弁座に異物等が付着していないか確認してください。
- フロート弁体に水垢等が付着していないか確認してください。
- 弁箱内に異物の付着等がないか確認してください。

2. 各部品の清掃

取り出した各部品は、傷を付けないように清掃してください。

3. 清掃後の各部品の確認

- 遊動弁体に装着されている小空気孔弁座に劣化・損傷がないか確認してください。
- ふた一式に装着されている大空気孔弁座に劣化・損傷がないか確認してください。
- フロート弁体の全面に損傷・割れ等がないか確認してください。
- 弁箱内に清掃時の汚れが残っていないか確認してください。

5 組立と止水確認

1. 組立

- 部品に異常がないことを確認してから組立を行ってください。
- 組立は分解手順の逆にふた一式の取り付けまで行ってください。
注) ふた一式を取り付けるとき、リングの噛み込みに注意してください。

2. 止水確認

- 通水の瞬間に空気孔から水が勢よく噴き出すことがありますので慎重にボールコックを開けてください。
- 空気孔および耐圧接合部から漏れがないことを確認してください。
万一漏れがある場合は、再度分解して漏れの原因を調べてください。
- 漏水等の異常がなければカバーを取り付けて作業完了です。

その他

部品交換が必要な場合は、機能維持のため、当社にご相談ください。

 **清水工業株式会社**

本社・工場 / 〒529-1151 滋賀県彦根市楡町250番地
TEL 0749(25)2550(代) FAX 0749(28)8015